

(報道発表)

2025年10月10日

NTT 東日本株式会社

レイクアンドピース株式会社

NTT 東日本が、可搬型バッテリーからキッチンカーへの電力供給を実証 地域密着型ガーデンフェス「Lake and Peace 2025」にて 持続可能なエネルギー活用を紹介 ～「こしがや脱炭素コンソーシアム」実証事業 第二弾～

NTT 東日本株式会社埼玉南支店（支店長：霜鳥 正隆、以下「NTT 東日本」）は、2025年10月4日（土）・5日（日）、레이크アンドピース実行委員会（代表：畔上 順平、以下「L&P」）が主催する越谷レイクタウン Sakura Lake 周辺で開催された「Lake and Peace 2025^{*1}～水辺からはじまる循環のカタチ」にて、キッチンカーへの電力供給を可搬型バッテリーで行う実証実験を実施しました。

終日、キッチンカーの電力は通常使用している発電機を使わず可搬型バッテリーのみでまかないました。7月の野外イベントでの照明への電力供給実証^{*2}よりも、多くの電力を必要とする実証となりましたが、カフェに必要なエスプレッソマシン、冷凍庫、ケトルに対しても安定した電力供給ができました。

また、同時開催の埼玉県が主催する「サーキュラーエコノミーラボ in 越谷^{*3}」にも出展しました。このイベントは、サーキュラーエコノミー^{*4}の認知向上を目的に、環境や循環型社会について楽しく学べる体験型イベントとなっており、テントブースにてNTT 東日本グループ会社の所有するバッテリー交換式EVコンバージョンカー^{*5}（以下、CEV）の展示や、来場者が小水力発電装置を使った発電体験ゲームを楽しめるコーナーを設置し、再生可能エネルギーの地域循環の可能性を実感する機会となりました。



キッチンカー（エスプレッソマシン等）への電力供給実証の様子



キッチンカーへ電力供給を行った可搬型バッテリー



可搬型バッテリーを搭載した NTT 東日本の CEV 社用車



展示ブースの様子

1. 背景と目的

2024年に設立された「こしがや脱炭素コンソーシアム^{※6}」では、民間事業者等10社が連携し、地域の脱炭素化と社会・経済課題の同時解決に向けた施策を検討しています。将来的なオフグリッド環境での可搬型バッテリーの有用性を検証するため、本イベントへの参画は「Lake and Beach 2025でのCEV活用実証^{※2}」に続く第二弾として実施されました。また、2025年9月の「災害時のCEV活用協定^{※7}」締結もコンソーシアムの一環として行われました。

埼玉県越谷市の大相模調節池では、今回のイベント「Lake and Peace 2025」で飲食や交流を通じて水辺の魅力を発信したL&Pが水辺空間の再開発に取り組んでいます。このような水辺空間の再開発地には電気・水道などのインフラが未整備であるため、太陽光発電や蓄電池、循環型トイレなどを活用したオフグリッド型の持続可能な運営体制が求められています。こうした地域課題の解決に向けて、NTT東日本は、CEVを活用した柔軟な電力供給を通じて、脱炭素化と災害時にも対応可能なエネルギーインフラの構築をめざしており、L&Pは、水辺空間の利活用と再開発を通じて、インフラ未整備地域でも持続可能な運営が可能となる循環型社会の実現をめざしています。

2. 実証概要

- ・ イベント名：Lake and Peace 2025 ～水辺からはじまる循環のカタチ～
- ・ 開催日時：2025年10月4日（土）11:00~18:00
- ・ 2025年10月5日（日）11:00~17:00
- ・ 開催場所：レイクタウン水辺の広場、大相模調節池（愛称：Sakura Lake）
（埼玉県越谷市レイクタウン2丁目付近）
- ・ 実施内容：キッチンカーへ可搬型バッテリーを用いた電力供給実証実験（10月5日のみ）
- ・ 主催：Lake and Peace 実行委員会

3. 実証結果

（1）発電機利用と比較した脱炭素効果（取得データより）

- ① 今回の取り組みでは、2日間で合計7.22kWhの電力を供給し、発電機を使用した場合と比較してCO₂排出量を約0.00806トン（8.06kg）削減。これは、ガソリン車で約19km走行した場合のCO₂排出量や、家庭用エアコンを約14時間稼働させる電力量に相当。
- ② 発電機利用と比べて電気使用によるコストを削減でき、環境負荷の低減と経済的なメリットの両立が確認された。

（2）実用性・利便性（会場へ来場されたキッチンカー事業者へのヒアリング結果より）

- ① 発電機に比べ、可搬型バッテリーを活用することで、家電製品を多く活用しても電力供給が安定している為、電源が遮断されるといった心配もなく安心して作業が行える。
- ② 発電機の場合、排気や騒音、現地までの運搬の問題があるが、可搬型バッテリーなら、環境にもやさしく騒音を気にせず、自身でも運搬できる為、安心して利用することができる。

- ③ 事業者がバッテリーを準備するのはなかなか難しい為、会場でレンタルができるような仕組みがあると利用したいと思える。

4. 各社の役割

- ・ NTT 東日本：こしがや脱炭素コンソーシアムでの本プロジェクト企画統括、調整
CEV および可搬型バッテリーの提供、実証事業の企画、運営
- ・ L&P：「Lake and Peace 2025」の企画・運営、参加事業者への協力依頼、調整

5. 今後の展開

今回の実証では、CEV に搭載された予備バッテリーを活用し、イベント会場のキッチンカーへ電力を供給することで、オフグリッド環境下でも安定した電力提供が可能であることを確認しました。今後は、こうしたモビリティ型電源の利活用をさらに広げ、地域イベントや災害時の電力支援、公共空間の利便性向上など、多様なシーンでの展開をめざします。

また、地域との連携を深めながら、脱炭素・循環型社会の実現に向けた取り組みを加速させ、持続可能な水辺空間の創出に貢献してまいります。

6. 同時開催イベントへのブース出展

- ・ イベント名：サーキュラーエコノミーラボ in 越谷
- ・ 開催日時：2025年10月4日（土）11:00~17:00
- ・ 2025年10月5日（日）11:00~17:00
- ・ 実施内容：テントブースにてCEVの展示
- ・ 小水力発電装置「ピコピカ」^{※8}を活用した発電体験ゲームの実施
- ・ 主催：埼玉県（企画運営：レイクアンドピース株式会社、株式会社スキーマ）

※1 Lake and Peace 2025：<https://www.lake-and-peace.jp/post/lakeandpeace2025100405>

※2 7月の野外イベントでの照明への電力供給実証、Lake and Beach 2025でのCEV活用実証：
<https://www.ntt-east.co.jp/saitama/news/detail/pdf/hp20250725.pdf>

※3 サーキュラーエコノミーラボ in 越谷（埼玉県 HP）：

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0507/news/page/news2025092501.html>

※4 サーキュラーエコノミー（経済産業省 HP）：

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/shigenjuncan/circular_economy/action/index.html

※5 バッテリー交換式EVコンバージョンカー（CEV）：ガソリンエンジン自動車から、エンジンやマフラー、燃料タンクなどを取り除き、モーターや電池を取り付けるなどの改造を行ったEV車両のうち、利用者がバッテリーを交換する可搬型バッテリー搭載・交換式タイプのもの。

※6 こしがや脱炭素コンソーシアム：<https://www.ntt-east.co.jp/saitama/news/detail/pdf/hp20240726.pdf>

※7 災害時のCEV活用協定：<https://www.ntt-east.co.jp/saitama/news/detail/pdf/hp20250929.pdf>

※8 小水力発電装置「ピコピカ」：https://www.ntt-tc.co.jp/corporate_customers/hydropower/

7. 本件に関するお問い合わせ先

NTT 東日本 : NTT 東日本 埼玉南支店 ビジネスインフォメーション部まちづくりコーディネート担当
Tel:048 - 229 - 2461 Mail : minamibi-vc02-ka@east.ntt.co.jp

L&P : レイクアンドピース株式会社
Tel: 050-5536-5335 Mail : infolp@lake-and-peace.jp